

論文 / 著書情報
Article / Book Information

論題(和文)	saveMLAK 震災を受けてMLAKになにができるか , になにができたか
Title(English)	
著者(和文)	阿児雄之
Authors(English)	Takayuki Ako
出典(和文)	人文科学とコンピュータシンポジウム「じんもんこん2011」, , ,
Citation(English)	, , ,
発行日 / Pub. date	2012,
権利情報 / Copyright	<p>ここに掲載した著作物の利用に関する注意: 本著作物の著作権は(社)情報処理学会に帰属します。本著作物は著作権者である情報処理学会の許可のもとに掲載するものです。ご利用に当たっては「著作権法」ならびに「情報処理学会倫理綱領」に従うことをお願いいたします。</p> <p>The copyright of this material is retained by the Information Processing Society of Japan (IPSJ). This material is published on this web site with the agreement of the author (s) and the IPSJ. Please be complied with Copyright Law of Japan and the Code of Ethics of the IPSJ if any users wish to reproduce, make derivative work, distribute or make available to the public any part or whole thereof.</p>

saveMLAK

震災を受けて MLAK になにができるか、なにができたか

日下 九八

阿児 雄之

1. saveMLAK について

saveMLAK とは、2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災で被災した博物館 (Museum)、図書館 (Library)、文書館 (Archives)、公民館 (Kominkan) 施設や関係者の支援を中心に、全国の有志によって進められているプロジェクトである。地震発生直後、ツイッターの「ライブラリーサービスはいまなにができるか考えようぜ。」というつぶやきから図書館だけでなく文書館、博物館へと広がり、MLAK それぞれが savelibrary、savemuseum、savearchives、savekominkan というタイトルで @wiki を利用したウェブサイトにて、各施設の被災・救援情報を集約する活動を始めた。Skype を用いた会議、googlegroup を利用したメーリングリストのやり取りを経て、4 月 11 日にこれら 4 サイトを統合し、セマンティックメディアウィキを用いた saveMLAK サイト (<http://savemlak.jp/>) が開設された。以後、メーリングリストやフェイスブックでの意見交換や、複数会場をスカイプを介して結びつけての会議などを併用しながら、本サイトを軸として活動が展開されている。

参加者の多くは MLAK 施設・機関に属する者が多く、それぞれの分野の学会・協会などにも所属するが、個人として自発的に参加している。

2. サイト構成

現在の saveMLAK サイトには、設立当初から収集を進めている各施設の被災情報・救援情報だけではなく、実に多様な情報が存在している。saveMLAK に集められた様々な情報は、次のとおり大きく分けられる。

- ・ メインページ
- ・ 施設情報ページ
- ・ 関連コンテンツページ
- ・ ウィキ編集者用ページ
- ・ ニュース、ツイッターなど

これら各種ページへのリンクを整理し提供しているのがメインページである (図 1)。saveMLAK が有している情報の全体像をつかむことができる。

上段に、収録情報の大部分を占める MLAK 施設の情報がある。登録館数や被災館数が判別できるような形で、「館種別」「地域別」に分類して提示している。また、被害報告のあった施設に関しては、その位置を Google Map に館種別のアイコンにて表示している。これら施設情報は、2011 年 11 月現在で 13,762 件に達している。

中段に、被災した施設や人々、これからボランティアに向かう人々に対して有用と思われる情報等を対象者別にまとめている。被災地の図書館や避難所に対するレファレンスサービスである「だれでも・どこでも Q&A 図書館」や、文書のカビ対策法を知ることができる「資料修復のための情報」、「これから被災地にボランティア活動に行く方へ」では、



図 1 : saveMLAK メインページ

保険や予防接種などの情報がまとまっている。

そして、下段にサイトでの情報編集をおこなうときに参照するガイドラインや、作業状況を把握するToDo リストなどへの案内をまとめている。

3. 施設情報ページ

各 MLAK 施設単位で存在するページが「施設情報ページ」である(図 2)。共通のテンプレートを用いて、施設の基本情報・被害状況・運営情報・救援状況等を掲載している。日々、参加者により収集情報が反映され、多くの人々が被災地の状況を知ることができるページであろう。

施設の基本情報として、名称・よみ・所在地・連絡先などを掲載し、その下には近隣施設を記した Google Map も提供している。日本における MLAK 施設を網羅したリストは存在せず、震災直後、被災地にはいったい何館の MLAK が存在するか把握できなかった。よって、saveMLAK ではひとつひとつの施設の存在確認から始め、情報を記載してきた。

被災状況や運営状況、救援状況については、記入者と情報源を明らかにする形で提示している。これら情報は、時系列に沿って追記されていくので、復興過程や現在の状況を知ることができる。これら状況は、項目ごとに編集が可能であり、できる限り作業負担の軽減を目指している。

図 2: 大船渡市立図書館の施設情報ページ

これらに加え、施設を分類する鍵として「カテゴリ」を付与している。「県カテゴリ」や図書館なのか博物館なのかを判別する「館種カテゴリ」、被害を示す「被害ありカテゴリ」などである。このカテゴリは、複数付与することが可能であるので複合施設の場合には、複数の「館種カテゴリ」を付与すれば分類が可能である。また、このカテゴリを付与することによって、ウィキシステムによる機械処理が可能となる。例えば、県別リストの作成や被害あり施設の抽出等が容易にできる。

4. 活動上の問題点

運営を進めて行く中で、いくつかの問題点が見えてきた。ここでは以下の 3 点に集約する。

- ・リストがない。公開されていない。古い。情報収集が難しい。
- ・IT 全般/ソーシャルなツールへの不慣れ、抵抗感。堂々と参加できない実態がある
- ・MLAK 間の常識や価値観の相違: それぞれの定義の問い直し、ページのデータ作成時の意識の違いなど

施設の基本的な情報をサイトに反映する上で文化財およびその複製物を保存し、あるいはそれらの情報を保有しているのは、県・市町村、および博物館・美術館、図書館、文書館といった機関・施設、特に地域における人的交流の場としての公民館である。震災時に迅速な対応を行なうためには、これらに関する基本的な情報を把握し、対応する機関・組織・個人などの間で共有していることが求められる。各施設の情報をサイトに掲載する上で、作業自体は機械的に自動作成が可能であり、現に saveMLAK でも、そのように作業した。しかし、反映させる情報の入手・収集・入力に多くの労力を必要とした。個々の文化財や寺社などについては、公開が好ましくないものがあるとしても、最新の情報に更新し、一定範囲で共有できるリストを作成する必要がある。

atwiki, メディアウィキのいずれにおいても、誰でも編集が可能な設定にあり、被災情報を得て、それを入力することは難しくない。しかし、「編集」ボタンをクリックすることに抵抗がある様子が見られた。特に公共施設に所属している場合、SNS サービスなどに参加しにくく、編集経験がないという声もあった。saveMLAK では、「うきうきウィキ祭り」と称したワークショップ的なイベントを開催し、ウィキペディア参加者やメディアウィキコミュニティの支援を得ることができた。

しかし、M/L/A/K は、それぞれに文化財を含む文化情報資源に接し、公共的役割を担うという共通点があるにもかかわらず、未だそれぞれに異なる常識を持ち、その違いを互いに認識していない。

個人個人のコンピューター、インターネットとの接し方や、個人の活動と組織の活動を相乗的に成果に結びつける試みとして、多くの関心を得、できれば一人でも多くの方に、参加していただけることを期待する。